

コード	402071101
記入日	H24.6.6

課コード	115
課名	農林課
課長名	幹 保孝
担当者	古川 利久

事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	町行造林保育事業
----------	----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	2
基本事業コード	40207	基本事業名称	林業の環境整備	目コード	4
事務事業コード	4020711	事務事業名称	造林事業費	細目コード	130
関連計画		法令・条例規則等	森林法		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか	対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 町行造林 (対象2)	(対象指標1) 1,150ha (対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入	活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠) (目標達成年度)
*****	・人工的に植栽したヒノキ等の保育作業を行った。 →保育作業面積 67.66ha →除間伐回数 1回 →下刈回数 1回	*****	*****	*****	*****
		① (達成率分析)	保育回数 1回	100%	保育回数÷ 計画保育回数
		② (達成率分析)			
目的：何をしたいのか	成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠) (目標達成年度)
・人工的に植栽したヒノキを保育作業することによって、生長を促進させ、優良木の生産を行う。また、森林のもつ公益的機能（水源かん養、土砂流出防備）などの高度発揮へとつなげることを目的とする。		*****	*****	*****	*****
		① (達成率分析)	保育面積 67.6ha	100%	保育面積÷ 計画保育面積
		② (達成率分析)			

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		22年度以前	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	7	7	6	1	1				
	②									
成果指標	① ha	419	419	351	68	68				
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	154,883	154,883	133,444	21,439	21,439				
直接事業費 A	千円	130,383	130,383	112,444	17,939	17,939				
人件費 B	千円	24,500	24,500	21,000	3,500	3,500				
内訳	従事職員数	人	3.5	3.5	3.0	0.5	0.5			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円	61,614	61,614	51,095	10,519	10,519			
	起債	千円	52,300	52,300	52,300					
	その他	千円								
一般財源	千円	40,969	40,969	30,049	10,920	10,920				

評価 (CHECK)

※理由の欄は必ず記載すること。

1次評価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ● ない	理由	森林の保全だけでなく、災害時の公益的機能の面も考慮しているため事業を行う必要がある。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	森林の生長面、環境面共に期待どおりの成果がでている。担い手である森林組合の雇用にも繋がる。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	現地調査を行い、適切な施策を行うことにより、森林のもつ機能の高度発揮が期待できる。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる ● いない	理由	事業費を削減することは、補助金の減少に繋がる。結果、町の負担分が増加することになる。また、基礎となる労務単価も安価なため、林業者の経営の安定も図られない。
		・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。	● 代えられる ● 代えられない	理由	補助事業が主であるため、一定の基準があり事業費の減額はできない。

改善 (ACTION)

1次評価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	特になし。
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

2次評価	保育作業により森林のもつ公益的機能（水源かん養、土砂流出防備）などへと繋げ、森林保全に努めること。
------	---

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。